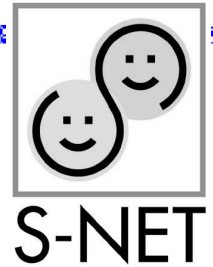


# KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン

SNET 広報 22号

編集責任者：NPO 法人湘南ふくしネットワークオンブズマン 藤本 直也  
 事務所：〒253-0044 神奈川県茅ヶ崎市新栄町 13-48 ワラシナビル5階  
 電話・FAX：0467-85-6660 直通電話：090 - 4937 - 4904 定価 100 円  
 ホームページ：http://www.npo-snet.com eメール：info@npo-snet.com



## 第 10 回通常総会のご報告

2010年6月19日(土)にNPO法人湘南ふくしネットワークオンブズマン(Sネット)第10回通常総会を開催いたしました。総会では、2009年度の活動報告・決算報告と2010年度の事業計画・予算計画が説明され、いずれも承認されました。また今回が理事改選の年にあたり、理事長が交代し、新たに4名の理事が就任いたしました。茅ヶ崎地区自閉症児・者親の会 会長の上杉氏、自治体職員であり社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会 機関誌「手をつなぐ」編集委員の又村氏に理事に加わっていただき、更に今後の活動を発展させていきたいと志を同じくしているところです。

今年度で、茅ヶ崎市との協働推進事業である“成年後見支援センター”がひとつの転機を迎えます。その転機に向かい新理事長の下、しっかりと事業に取り組んでいきます。また、翔の会(茅ヶ崎市)の共同生活援助事業、共同生活介護事業であるグループホーム等へのオンブズマン派遣を開始いたします。利用者の側に徹底的に立つ姿勢を大切に、活動を続けていきたいと思っております。



理事・監事名簿(敬称略)		
役職	氏名(住所)[各50音順]	所属
理事長	藤本 直也 (鎌倉市)	Sネット
副理事長	江崎 康子 (藤沢市)	Sネット
	薩摩 章子 (茅ヶ崎市)	Sネット
理事	相川 裕 (横浜市)	Sネット
	稲木 俊夫 (逗子市)	社会福祉法人 湘南の風
	上杉 桂子 (茅ヶ崎市)	茅ヶ崎地区自閉症児・者親の会
	大石 剛一郎 (川崎市)	Sネット
	小野田 智司(茅ヶ崎市)	Sネット
	小野田 潤 (茅ヶ崎市)	在宅介護よろず相談「結」
	永峯 千尋 (茅ヶ崎市)	Sネット
	高橋 健一 (茅ヶ崎市)	社会福祉法人 翔の会
	高山 直樹 (藤沢市)	Sネット
	千木良 正 (横浜市)	横浜弁護士会
	増藤 純 (茅ヶ崎市)	就労継続支援 A 型事業(利用者)
又村 あおい(座間市)	自治体、「手をつなぐ」編集委員	
牧野 賢一(相模原市)	社会福祉法人 湘南福祉センター	
監事	山下 和男 (横須賀市)	Sネット
備考		
1. 理事退任：新見 正彦、山下 和男		
2. 監事退任：塚越 博、宮内 智		
3. 理事就任：上杉 桂子、又村 あおい、相川 裕、薩摩 章子		
4. 監事就任：山下 和男		



## 新理事長のご挨拶

このたび、6月19日の理事会にて選任いただき高山直樹前理事長の後任として理事長に就任いたしました藤本直也です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

湘南ふくしネットワークオンブズマン(Sネット)発足後初めての理事長交代であり、また、高山直樹前理事長の後任ということで、非常に大役ではありますが、一生懸命自分のできる事をさせていただきたいと思っています。

前理事長にはSネット発足時から約12年間に亘り、Sネットを牽引いただき、今日のような「市民による権利擁護の仕組み」が出来てきました。そのご尽力に深く感謝する次第です。また、前理事長には引き続き理事就任を快諾いただきましたので、今後ともご意見を頂戴しながらSネットを支えていただけることと心強く思っています。

今年度は、茅ヶ崎市との協働推進事業である「茅ヶ崎市民のための市民による成年後見支援センター事業」の最後の年であり、私どもの今後の方向性を示さなければなりません。また、私どものオンブズマン活動は、「地域ネットワーク型福祉オンブズマン」といわれていますが、施設との協働あってこそそのオンブズマン活動であり、協働について再考する時期にきております。

私は、2002年4月からSネットに参加し、主に知的障害者の施設でオンブズマン活動を行ってきました。私がこの活動に参加した当時は、社会福祉構造基礎改革のもと措置から契約へと福祉制度が移行され、「利用者本位のサービスへの転向」、「ノーマライゼーション社会の実現」、「施設から地域生活へ」と私も社会変革の一翼を担うという使命感のもと、オンブズマン活動を行ってきましたが、まだまだそれらの実現には至っていないと感じています。

Sネットは、障害者、高齢者、児童一人ひとりが市民として地域社会でともに暮らせるよう、福祉サービスを利用する人たち、そのまわりにいる人たち、地域のあらゆる人たちと協力し、ノーマライゼーション社会の実現をめざし、Sネットがこれまであげてきた成果を基礎に社会の変革に努めてまいります。

皆様方には今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン

理事長 藤本 直也

## 理事長退任のご挨拶

1997年からオンブズマン委員会代表、2001年から法人理事長として12年間、関わらせていただきました。この間多くの方々からご支援をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

めまぐるしい制度改革のなかで、常に利用者の方々の権利擁護を目的にオンブズマン活動、成年後見及び支援活動を行ってきました。しかしながら前者は制度疲労を起し、後者は新しい道を切り開かなければなりません。

そのためには既存のパワーに加え、新しいパワーの組織化が必要となります。藤本理事長は真のノーマライゼーション構築を掲げ、自らの生活におけるリスクを引き受けながら、理事長としての就任を決断しました。その情熱に敬意を表するとともに、しっかりと支えていきたいと思えます。

Sネットは常に利用者の権利擁護を推進していくために、自らも改革していきます。

理事 高山 直樹



## 大石剛一郎のイギリス訪問記 シリーズ 第2弾!!

イギリスでも、日本と同様、自閉症の障害のある人が事件を起こした場合、責任能力があると認められれば、普通に刑事裁判で裁かれます。ただし、どんなに重大な結果が発生してしまった事件であっても、死刑はありません。「地域で生活する権利」は、どんな人にも保障されている絶対的な権利であると考えられているので、永久に地域に戻ってくる可能性のない「死刑」は、イギリスでは刑罰として存在しないのです（ちなみに障害者の入所施設などは、50年くらい前に廃止されています）。イギリスでは「終身刑」という刑罰が最も重い刑罰で、これにも「仮釈放」の可能性が残されています。

それでは、自閉症の障害のある人が非常に重大な事件を起こし、終身刑に処せられ、その後仮釈放になったときには、そのままポンと地域に戻るようになるのでしょうか。日本と同様イギリスでも、刑務所においては、自閉症の障害のある人について、再犯防止のために必要な支援が模索されることなど、ほとんどありません。ですから、何の支援もないままポンと地域に戻ったら、また不安定になって事件を起こしてしまう危険があることを否定できません。それは社会（＝地域住民）にとっても、自閉症の障害のある本人とその家族にとっても、不幸なことです。イギリスでは、そのような危険な状態を避けるため、終身刑⇒仮釈放となった人について、「保安病院」（精神病院の一種）が一定期間、自閉症の障害のある人に対し、医療的なケアを中心に、本人が安全に地域で生活するために必要な支援を模索します。そこでは当然ながら、ソーシャルワーカーも支援模索のためのスタッフに入っています。危険度の高い状態の人がトレーニングする病棟、中度の危険の病棟、危険度の低くなった人の病棟、鍵のかかる地域生活準備訓練施設、鍵のかからない共同生活棟などを経て、地域生活に一定の支援付きで戻って行きます。「地域で『安全に』生活する権利」が本人にも地域住民にも保障されなければならない、という発想・強い理念がその背景・根底にはあります。

この「保安病院」による（安全な地域生活への復帰のための）支援に向けた取組みは、自閉症の障害のある人が事件を起こし、「責任能力なし」と判断された場合にも行われます。この部分は日本の医療観察法のシステムに似ています。ただ、日本の医療観察法適用場面は、幻覚・幻聴のある統合失調症の人のケースがほとんどで、単なる自閉症で、不安定になってしまう場合がある、という人については、基本的には対応・機能しません。イギリスでは、そのような自閉症の人も、「適切な医療的ケアを有効に利用できる可能性のある人」という基準で取り込み、地域で安全に生活するための支援を模索するシステムが用意されているのです。もっともこれは一歩間違えば、「危険な障害者を一生病院に収容するシステム」になりかねません。障害者の入所施設を廃止し、死刑を廃止し、「地域で生活する権利はどんな人にも保障されている」と言いきる人たちが法制度を動かす社会だからこそ、信頼して是認されるシステムと言えるのだらうと思います。日本でも、ノーマライゼーション、施設から地域生活へ、等のスローガンが掲げられて久しいですが、そこに魂が宿るための第一歩は実は、「死刑廃止」なのかもしれません。

（弁護士 大石剛一郎）



## 研修会のお知らせ

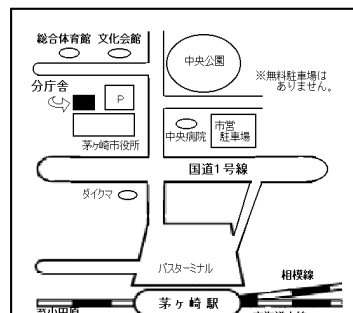
# 2010年度権利擁護研修 ～あなたも権利擁護活動に参加しませんか?～

- ・日 時：2010年9月23日（木）（秋分の日）～24日（金）
- ・場 所：茅ヶ崎市分庁舎5F A・B会議室
- ・定 員：50名
- ・参加費：10,000円
- ・対象者：どなたでも自由にご参加ください。

※申し込み方法等の詳細は、同封のチラシをご覧ください。またはSネットまでお問い合わせください。

主催：湘南ふくしネットワークオンブズマン

Tel&FAX：0467-85-6660



### 研修項目と講師

研修項目	講 師
講 義 1	藤本 直也 (Sネット理事長)
講 義 2	高山 直樹 (Sネット理事) 東洋大学社会学部社会福祉学科 教授
講 義 3	大石 剛一郎 (Sネット理事) 弁護士
実践報告 1	江崎 康子 (Sネット副理事長)
実践報告 2	薩摩 章子 (Sネット副理事長)
実践報告 3	牧野 賢一 (Sネット理事) 社会福祉法人湘南福祉セーター下宿屋ホーム長
当事者の声 1	通所施設男性利用者 グループホーム利用者
当事者の声 2	
当事者の声 3	

## 賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員会費 ・個人 年額 一〇 1,000円 (一〇以上)
- ・法人 年額 一〇 5,000円 (一〇以上)
- ◇ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください  
郵便振替口座番号：00210-9-75496  
口座名義人：NPO法人 Sネットオンブズマン

## －編集後記－

イギリス訪問記の第2弾はいかがでしたでしょうか。日本との違いに驚いているばかりではならないことを深く感じました。(小野田)

高山前理事長の後任として理事長に就任いたしました。非常に大役ではありますが、広報編集とともに一生懸命がんばります。(藤本)

茅ヶ崎市民活動サポートセンターの2色刷り印刷機に感謝！(江崎)

